令和8年度 地域ぐるみで「体験の風をおこそう」運動推進事業
子どもゆめ基金助成金説明会　　報告書

1．趣旨　　福岡県内の体験活動を拡充させるため、県内の国公立施設が主体となって、地域で活動する団体やNPO、草の根団体等に体験活動の重要性を改めて理解していただくとともに、子どもゆめ基金助成金の制度や申請についての理解を図る。
また、経済的な困窮等による「体験格差」を踏まえ、県内の母子寡婦協議会や児童養護施設等に子どもゆめ基金助成金を周知し、より多くの子供達に体験の機会を提供することを図る。

2．主催　　独立行政法人国立青少年教育振興機構　国立夜須高原青少年自然の家

3．後援　　福岡県青少年育成県民会議

4．開催日　　第１回　令和８年 10 月９日（金）　　13:30～16:30
第２回　令和８年 10 月 11 日（日）　13:30～16:30

5．会場　　福岡市 NPO・ボランティア交流センターあすみん
（福岡市中央区今泉１丁目 19-22 天神クラス４階）

6．対象　　子供の健全育成を目的に体験活動及びその振興に取り組む団体
（公益社団法人や公益財団法人、NPO 法人、法人格を有しない地域のグループ等）
児童養護施設や母子生活支援施設、母子寡婦福祉団体協議会　等

7. 参加者　　第1回　15団体　19名
第2回　 7団体　10名

8. 当日の様子


【施設ＰＲ】




【助成金についての説明】


【質疑応答】




【個別相談】

9. 感想

【第１回】

・全体的に早足な気がしました。

・申請しても通らないというのがウワサであり、申請を躊躇していたが今回の説明会で申請してみよう、との考えが出てきた。

・説明がわかりやすかった。場所、アクセスがよい。

・個別相談ができて、申請の参考になりました。

・丁寧にわかりやすく説明頂きました。変更点も理解しやすかったです。

・動画活用でとてもわかりやすかった。

・資料以外の説明も頂きたかったです。

・担当者の説明も良かったし、募集案内資料を頂けたのも良かった。

・初めてで、発達障がい児の件なので、分野的に大丈夫かなと思いました。

・速答ではない項目がありましたが、後日お電話いただけるということで大変助かります。

・細かい質問にも答えてくださいました。

・変更点はわかりやすかったです。（附帯事務費の対象範囲の箇所）

【第２回】

・内容がシンプルでわかりやすかった。

・わかりやすかった。個別相談ができるのもよかった。

・配布資料に沿っての説明だったので良かったです。

・変更点、注意すべきところが特にわかった。

10. 成果

○ 昨年度の参加者アンケートより、説明会に参加した団体の半数が平日開催を希望していたため、今年度は2回とも同じ会場での実施とし、内1回を平日開催とした。その結果、平日開催の参加団体が多く、2日間通して想定以上の団体数の方に参加してもらうことができた。

○ 広報について、福岡県社会教育総合センター、福岡県立英彦山青年の家、福岡県立少年自然の家「玄海の家」の3施設へ広報依頼を行うとともに、既に助成活動をしている団体、過去3年以内に当施設を利用している団体の内対象となる団体、福岡県内の児童養護施設それぞれに本事業の開催案内を送付した。その結果、助成団体のみでなく現在検討中の団体にも参加してもらい、利用について前向きに検討してもらうことができた。

○ 全体での質疑応答について、事前に質問事項を記載する用紙を渡しており、その記載・提出をお願いした上で質疑応答を実施したところ、時間があまり押すことなく日程通りに順調に進めることができた。またその分、各団体の個別相談に時間を割り当てることができ、アンケートでは個別相談における高評価をいただいた。

11. 課題

○ 事前に申込のあった団体の中で、事前連絡もなく当日欠席した団体が8団体おり、当日時間を間違えて早めに会場に到着してしまった団体もいた。そのため、事前に参加申し込みのあった団体には、日程について直前に確認の連絡を行う必要があるとみられる。

○ 参加者アンケートより、他団体との交流や活動等の共有を希望していた団体が複数団体あった。来年度以降の実施において、個別相談と同様に希望制で団体交流会を行うことも検討する必要がある。

○ 個別相談の順番について、第1回はランダム、第2回は当日の受付順とした。個別相談は2ブースでの実施となるため、後の予定の都合から待ち時間を気にする団体も多かった。そのため駐車場の料金や待ち時間も踏まえると、会場で受付をした順番で案内を行う方が良いとみられる。また、その際はチラシや開催要項にも事前に記載する必要がある。